

どうぶつこうえん ニュース



 **千葉市動物公園**
Chiba Zoological Park

ムツオビアルマジロ

11月6日にムツオビアルマジロのメスが動物病院での検疫を終了して動物科学館1階の夜行性動物舎にやってきました。オスがいる展示場に放すと特にケンカをすることもなく、つかず離れずで一安心しました。しばらくはオスは穴でつながっている小さな部屋で寝て、メスは展示場で寝ていましたが、1週間後にはそろって部屋の中で並んで寝るようになりました。あとは繁殖を期待しています。

宝川 範久 TAKARAGAWA NORIHISA

No.82
2011
Winter



飼育よもやま話

父から子へ～ポンタからの贈り物



昼時に、ひときわ騒々しい、餌のドジョウをせがむ声が聞こえてくるのが、コツメカワウソの展示場です。今日も腕白小僧たちが、親からドジョウをもらうために、声を張り上げています。そのうち、自分でドジョウを捕まえて食べることの醍醐味を味わうことができるでしょう。

幸運なことに、私は、今回で、コツメカワウソの二度の出産育児を間近で見る機会に巡り合えました。彼らの育児をつぶさに見てみると、何といても、父親の役割が、非常に重要なことがわかりました。父親のポンタは、昨年の育児の時は、巣箱の中で必死に仔を守り、毎朝の仔の体重測定および部屋の掃除のために、放飼場に閉め出すのにとても苦労しました。あの手この手を使って、なんとか出そうとするのですが、なかなか出でくれず、彼の仔を思う気持ちの強さに感服したものでした。今年は、一昨年、昨年生まれの兄弟が6頭おり、子守兵隊として頑張ってくれましたので、幾分、子育ての荷が下りたのと、昨年の私たちの管理に、多少は、信頼感を持ってくれたのか、それほど頑固に仔を守るという態度は見せず、朝も素直に放飼場に出てくれ、体重測定などの業務が、非常にスムーズに進みました。しかしながら、仔が心配なのは相変わらずで、掃除が終わり、扉を開けてやると、真っ先に飛び込んで来て、仔を確認するという日課は、欠かしたことはありませんでした。仔が、離乳し始めると、ドジョウをせせと運んできたり、夕方、部屋の中では、仔の前に、アジを持って来て、落としてやったりと、献身的な育児には、頭が下がります。彼の子育てを見ていて、自分の子育てはどうなんだろうかと、自問自答することもありました。私にとっての父親の理想像は、やはり実の父親なのですが、彼らにとっても、父親のポンタに注いでもらった愛情は、この先ずっと、心の中に残り続ける宝物の1つとなるのでしょうか。朝、放飼場に出す時に、ペレットを少し撒いておくのですが、ポンタは、自分はあまり食べずに、「ウーッ」と低く唸り声を出して、仔を呼んで、分けてやります。この鳴き声の響きがとても優しく、一度、皆さんに聞かせてあげたいですね。そこで一首、「秋の夜に 吾子に聞かせる子守唄 気付けば同じ 父母の節」。

松本 和人 (MATSUMOTO KAZUHITO)

動物公園の植物

樹木管理について

園内に多くの樹木があるのは、みなさんご存じかと思います。その樹木の管理について、少しお話ししたいと思います。

樹木管理は、まず、その樹木本来の役割や機能を十分に発揮できるように、健全に育成し維持することが基本となります。主な作業内容としては、剪定、刈込み、施肥、灌水、枯木等の処理などが挙げられます。なかでも、今日は、剪定にスポットを当てたいと思います。

剪定と言っても “軽く整える” 程度から “ばっさり” まで、色々なレベルがあります。剪定の目的は、大きく3つに分けられます。

まず、不必要な幹や枝をおろして、樹木本来の樹形を保つようにする、周囲とのバランスを保つなどの美観上の目的があります。次に、その樹木が持っている防風、目隠し、緑陰等の役割を十分に発揮できるようにするなどの実用上の目的があります。この場合は、枝葉を繁茂させるための剪定を行ったりします。最後に、込み入った枝を間引き、通風・採光をよくして、病虫害を防いだり、既に病虫害にあって衰弱した樹木であれば、枝葉を切り詰め、新しい枝を再生して、若返らせるなどの生理上の目的があります。

それぞれ、状況に応じて、どのような剪定をするか決めていきます。

大きい樹木が込み入ってしまっている場合には、何本か伐採をするという場合もあります。大きくなった樹木を切るのはもったいない、というお言葉をいただくかもしれませんが、健全な樹木を育て、美しい景観をつくるためには仕方のないことだと思い、心を鬼にして手を加えます。

と言っていますが、園内を見まわすと、樹木が生い茂り、見通しが悪いところも多く見受けられ、管理が十分に行き届いていないのが現状です。樹木同士が込み合い、横に枝葉を広げられず、上にしか伸びられない状況を見ると、樹木が苦しそうで、心が痛みます。

そのため、一刻も早く管理をしなければ! と気合を入れて、やりたいところですが、管理時期も選ばなければいけないですし、大がかりな作業は休園日にしかできず、さらに、お金もかかることです。なかなか一気にやるという訳にもいかないのですが、お客様が園内を歩かれたときに心地よいと感じられる空間になるように、根気よく樹木の維持管理をしていきたいと思っています。

木本久美子 (KIMOTO KUMIKO)



動物公園日誌から

2011年9月1日～11月30日

- 9月 3日 チンチラ：3頭繁殖。(1頭、4日に死亡)
9月 7日 オオカンガルー (ウーチャン)：呼吸異常のため、麻酔下でレントゲン等検査。
心臓に水が溜まっている様な所見あり。
袋の中に仔(体長4cm程)を確認。
9月 8日 ゴリラ (ローラ)：朝、元気なく、良便に混じって下痢便あり。整腸剤を与える。
9月 9日 コアリクイの仔：体重減少のため人工哺乳を始める。
9月12日 フラミンゴ：展示場改修工事終了のため、病院から展示場に戻す。
9月14日 ゴリラ (ケンタ)：下痢、軟便。
9月17日 ムフロン (ヨシミ)：肺炎のため死亡。
お楽しみ Day 開催。(オランウータン)
9月20日 マレーバク (ユメタ)：サコとペアリング。サコが逃げて回り、交尾せず。
9月24日 おもしろ発見ツアー開催。(カリフォルニアアシカ)
10月 1日 マダガスカルホシガメ：子ども動物園に屋外展示していた3個体、気温低下のため科学館に収容。
10月 3日 モウコノウマ (トメキチ)：クリスと交尾。
10月 4日 チンチラ：3頭繁殖。
10月 5日 シタツunga (ミト)：王子動物園より帰還。
10月 6日 ニホンヤモリ：検疫あけで、子ども動物園にて展示を行う。
10月 8日 千葉市科学館で「羊毛教室」に講師派遣。
10月10日 グレビーシマウマ (シズカ)：両後肢の関節が内側に變形している。老齢化のため、軟骨補強剤を投与するようにする。
10月14日 カラフトフクロウ (オス)：展示場で死亡。
10月15日 お楽しみ Day 開催。(グレビーシマウマ)
10月16日 ウマ・ロバ全頭削蹄実施。(削蹄師による)
10月17日 バカ (オス)：交換のため、石川動物園へ搬出。
10月18日 バカ (メス) 石川動物園より搬入。
10月21日 ムツオビアルマジロ (メス)、ヒツジ搬入。
10月22日 おもしろ発見ツアー開催。(ラクダ)
10月29日 シタツunga (ミドル)：20日より体調をくずし治療を行っていたが、午後死亡する。
10月31日 ビグミーマーモセット1頭(オス)、コモンマーモセット2頭(オス、メス各1頭)搬入。
11月 5日 ちばZOOフェスタ開催。(～6日)
11月 7日 チンチラ (メス)：死亡。
11月 8日 職場体験実習生8名(真砂中学校・幕張本郷中学校・加曽利中学校)。
11月14日 ミーアキャット (ホープ)：肺炎のため死亡。
イシガメ、クサガメ：冬眠準備のため、池にワラを入れる。
11月15日 ベニイロフラミンゴ：削瘦のため入院。
11月19日 お楽しみDay開催。(コツメカワウソ)
ケープペンギン2羽：マイクロチップ挿入。
11月21日 ショウガラゴ2頭繁殖。
キジ・猛禽類：ニューカッスル予防接種。
11月22日 ケープペンギン(2羽)搬出。
11月24日 フタコブラクダ (トニー)：朝、座っていて近づくと怒る。
朝与えた青草ほとんど食わず。排便、排尿あり。
11月27日 大人の飼育体験実施。
11月28日 フタコブラクダ (トニー)：腹膜炎のため死亡。
ヘビクイワシ：東武動物公園のヘビクイワシと交換。



9月17日 お楽しみDay



10月8日 きぼーるでの羊毛教室
(千葉市科学館連携事業)



11月27日 大人の飼育体験



動物公園協会の歩み

昭和60年4月28日春の暖かな陽射しのふりそそぐ中、千葉市動物公園は開園しました。それより約三ヶ月前の60年1月18日に財団法人千葉市動物公園協会は、千葉県の認可を受け設立しました。

動物公園における動物に関する知識と動物愛護の思想を普及することを目的に、動物に関する知識等の普及事業、料金徴収業務等の事業及び売店、食堂等の収益事業を行うこととして、開園までの準備は、ほぼ素人の職員、非常勤職員で進めました。開園初日、改札口では入園する人々であふれ、入園料の徴収も券売機、自動改札機では間に合わず、改札口では個々の職員による手取りで対応せざるを得ない程の混雑、売店にあっては、店頭準備した商品は全て完売、レストラン、喫茶室でも数日分仕入れたはずが全て売切れとなり、市民の動物公園開園への期待の大きさを表していました。朝7時出勤、夜は翌日寸前の帰宅という忙しい日々から始まり、初めてのゴールデンウィークは、本当に目の回るような忙しさの連続でした。職員にとっては、初日から暫く続いた開園フィーバーは、なつかしい良き思い出となっています。

その後、二次開園、モノレールの開通、遊園地のオープンと現在の姿が形作られ、協会としての業務も、当初の設立目的に沿って徐々に増え、職員、非常勤職員を併せ、70名以上が共に従事した時期もあり、動物公園における来園者へのサービス業務の大半を協会が担っているという職員の自負も芽生えました。年間のイベントは、飼育課との共催で成り立っているのもありましたが、直接来園者が楽しむようなイベントのほとんどは、独自で計画から準備、実施まで全て職員で対応しました。天候によっては延期、中止となるものもあり、遠足を楽しみにしている子どものように天気予報が気になったものです。年に2回実施したZOOクイズラリーでは、参加者へのプレゼントの準備、園内への問題看板設置など、当日の朝まで天気に左右され奔走したこともありました。天候による入園者数減少は、協会の事業を支えている収益事業の収入へも直接響きました。職員の中には、週末ごとに『てるてる坊主』を下げたい気持ちになると言った者もありました。また、動物公園で最初に来園者に接し、最後にも接することができる業

務をして、来園者から、満足な笑顔で「楽しかった。ありがとう」との言葉をかけられることに喜びを感じ、嬉々としていたことが思い出されます。そして、平成19年度からは、動物公園が市民の方々の支援を受け発展していくために市民参加の必要性が叫ばれ、協会の事業として手探りでボランティア事業やサポーター事業も始めました。

一方、職員として業務を順調に遂行していくことと、協会の存立は同様にはなりません。千葉市の公園緑地部内にある別の外郭団体の千葉市みどりの協会との合併との話が持ち上がったこともあり、また、国を挙げての行政改革は、指定管理制度の導入や公益法人制度そのものの改革へもつながり動物公園協会の存続にあたっての課題が見え始めました。そして、平成22年3月に千葉市が公表した千葉市外郭団体見直し指針（改訂版）、その後の政策会議にて廃止に向けて検討するとの決定がされました。これまで協会として実施してきた教育普及事業は、動物公園が引き継ぎ、協会は平成23年度末をもって解散、廃止することとなりました。既に、今年度は、それまでの料金徴収業務等と売店業務は、別の会社が行っており、24年3月の廃止への道のりが始まっています。

このどうぶつこうえんニュースは昭和60年度の第1号から協会が発行して参りましたが、今回の第82号をもって協会での発行は終了となります。来年度以降は動物公園独自で編集、発行となり、継続していきますので、これからもお楽しみにいただければ幸いです。

最後に、動物公園がこれからも市民の憩いの場として、さらに発展し、千葉市にはなくてはならない場所として多くの方々が訪れる公園となっていくことを願ってやみません。また、動物公園として引き継がれた教育普及事業の更なる発展と、特に、まだ始めたばかりのボランティア事業とサポーター事業は、直接市民の方々の支援を仰ぐ事業として、今後も良い形で引き継がれることを念願しています。これまで協会にご協力、ご支援、ご助言をいただいた皆様に大変感謝をしております。ありがとうございました。

若井 たかみ (WAKAI TAKAMI)

動物取扱業者標識

- ①氏名又は名称
- ②事業所の名称
- ③事業所の所在地
- ④動物取扱業の種別
- ⑤登録番号

千葉市動物公園 園長 岡田 進
千葉市動物公園
千葉市若葉区源町280
展示・貸出・保管・販売
展示 第50015号・貸出 第30016号
保管 第20200号・販売 第10205号

⑥登録年月日

展示 平成19年7月30日
貸出・保管・販売 平成23年11月7日
展示 平成24年7月29日
貸出・保管・販売 平成28年11月6日
飼育課長 牧野 辰男

⑦有効期間の末日

⑧動物取扱責任者

動物飼育数

平成23年11月末現在の飼育数

総計

143種 785点

哺乳類

63種
448点

鳥類

71種
302点

爬虫類

7種
32点

両生類

1種
2点

魚類

1種
1点

どうぶつこうえんニュース 第82号 平成24年1月15日発行

編集発行

千葉市動物公園

<http://www.city.chiba.jp/zoo/>

(財)千葉市動物公園協会

<http://www.chibazoo.net/>

[総合案内] TEL043-252-1111

〒264-0037 千葉市若葉区源町280番地

280 Minamoto-cho Wakabaku Chiba-city Japan

